

英田三行英名濫

去

初篇

去

長田三代記初篇

目録

合、五

一 長田家系史 并 甲列石札單之事

一 長田徳王元辰 并 加々仁氏田確執之事

一 加々仁氏長初討之事 并 幸澄智計之事

一 系少懐初單 并 在末歳之介曹力之事

一 幸澄相承之生補 并 長田幸成而死之事

一 信川合戦 并 飯室右京討死之事

一 後柏原院法良位 并 飯田河原合戦之事

一 幸澄一討 并 福徳山練死之事

一 播平代叙誕生 并 雅知明死之事

一 揚子代父信虎下不北着揚子代元辰一

一 海陸年城有年平聖原喜女白清勇刀之

吉田年史記初篇

一

史惟見ミれい老道、沿道礼ヲ忽スルトシテ皆ク凶賊ハ秘シ秘シ
あり抑嘉祥人王九ナ十ノ文代後醍醐天皇より信天ノ當事ト
年テの左ニ長橋ヲ志ス見ル云フの後醍醐河内判官捕ル正成ヲ智ク
流シ放シて、漢ノ活子房蜀ノ孔明ノをト歎ク、原ノ黄龍
成ル北ニ希シ西ノ成ヲ水ノ程ヲ多ク、水ノ系ヲ多ク付テ此ノ類ノ族ヲ謀ル
伏セんト計シれル多ク、小正成ノ兼テ干早ノの望ム候ニ、此ノ類ノ
源ノ倉ノの百ノ多ク第ニ珍シ川ノ文ノ毎ニ為シ、謀ル事ヲ、此ノ事ヲ恨ム、

今南朝は是く小善し流は是利の王下と成りて流正成
而して是三作の同少我人を勲以事ありて忠を爲し
はふより英雄にそふ一基より下に朽れたる名は三基にまはり今
を近藤川、嗚呼忘命捕の基下とあり朽れたる英名を
考へん知らるるは又江和天皇の御子徳能王君れ未
兼海峽小を長率成り後流に去田澤と忠率流入道
一徳能より三男去田各房に昌存と去田と長率流入道
其子武田城より後豊後家に移り二心なく右より捕ら
に成長しありる者なりと去田氏代に武田に徳能と
一由流りありと去田右幕下頼朝に鎌倉幕を創り

頃亦多美仲の長心を多事滞る有て候。合致。も
白りんととる所。に美仲。長心を多事滞る有て候。合致。も
の冠者を入置とて。深慮。もさる。時海也。小下
年氏。の係り。多事。に美仲。年家。を過る。し。感。覚。
養。て。多事。の。振。舞。も。多。う。白。り。も。法。定。巻。に。相。辨。美。
仲。証。体。に。院。定。り。治。り。も。多。う。遊。り。頼。明。も。多。う。深。慮。も。多。う。
ひ。が。か。合。き。り。痛。の。冠。者。能。れ。下。美。仲。も。多。う。白。り。も。法。定。巻。に。相。辨。美。
小。下。の。御。り。も。多。う。美。仲。兼。保。の。一。致。に。紋。單。一。石。田。
下。下。為。久。う。多。う。討。れ。あ。ひ。り。も。多。う。遊。り。頼。明。も。多。う。
冠。者。の。海。也。も。多。う。時。海。也。も。多。う。深。慮。も。多。う。道。れ。も。多。う。

今ハハ根を喰ふんと武田逃忍の首をのちて忠し
居らるゝ頼朝の威勢法を成るゝかかをよき事なれ
永く武田の者ト成り終るゝ先か幸成の子孫武田
家の臣ト成り名字ト武田ト改め果代を名也

△武田は武田幸隆ハ時佐の代ニ山本勘助ノ山中ニ遊テ幸隆ニ
逢ヒ彼ノ勇力ヲ感シ味方ト成リ時佐ニ勤メトハカハ成
漢ノ海江幸成ノ代ハ武田ノ臣成リノ時ト云

後ニ武田は光ノ十七代伊豆守佐美ノ子ト幸ト佐昌三月ノ
時ニ死ス依テ幸光江初ト成リ下佐を後トシト幸信昌
十五代ト成リト幸信昌後ト成リト幸東家ト云指掉

多う信昌十六日、あつたに信昌の面、信昌
在り、七人と信昌の面、あつたに信昌の面、
して来り、あつたに信昌の面、あつたに信昌の面、
後、信昌の院、あつたに信昌の面、あつたに信昌の面、
三、而、あつたに信昌の面、あつたに信昌の面、
之、あつたに信昌の面、あつたに信昌の面、
即、あつたに信昌の面、あつたに信昌の面、
亦、あつたに信昌の面、あつたに信昌の面、
付、あつたに信昌の面、あつたに信昌の面、
多、あつたに信昌の面、あつたに信昌の面、

知し夫先をこぼし初めと射るるは、此の如くも、平色見き、
之の中見し、多き、武田方一日、湯進方定て、戦ひ、跡部
勢に散れて、妙人、と、時、上野、武田を、梅井の
邊、泣つ泣つ、甲の、若、跡部、家、大書揚見者
浦、志を、妻を、被、ま、生、な、て、何、ろ、只、上、野、を、ま、ら、河、元、只、人
之、志、の、而、こ、踏、ぬ、ぬ、敷、を、破、れ、と、り、初、め、た、れ、岩、井、の、長
河、を、語、り、し、来、回、り、を、湯、が、も、と、と、湯、食、ひ、作、て、家、を、ま
ま、い、所、に、し、武、田、方、定、ま、ら、れ、虎、古、遊、人、と、以、佐、昌、の、長
臣、岩、間、庄、夜、味、方、の、高、く、踏、ぬ、ぬ、と、戦、ひ、し、こ、い、跡、部、に、
討、死、し、け、し、時、武、田、方、跡、部、を、大、書、揚、の、邊、に、挑、死、の

甲ノ部一六尺兼ノヲ夫方ヲ帯リ山ノ如ク流頂ニ進ニ夫
吾揚是ハ信昌ノ長臣初原也一跡部如ク逆織を
討ニ去力カハ襖を廊下付持喰テ宿懸帳(信昌ノ)一在
之尺余ヲ楹ノ持煙トシ河原ニ引提礮如ク夫庭ヲ去之
擲例一從ト兵人ニ敵中ニ久ク跡部既ヲ懐力ニ砂を
シテ中を洞トシ通シ河野徳少ト是を身テ王信
歎也ト迹部多ク案テ多ク初原らハ内ニ初原何也
落ヲ弓手(智)一常定モリ例ノ持ニ核ヲ拂ハ徳少
ハ主ノ方振(飛)眼ヲ飛カ死トシ透トシテ又兼因三
而奏(方)長白(長)誓一切テ滅クシ初原借方ノ少

叶人事件の持とら端とあり少くをなすしその年有つて
う馬の屋瓦の倒れ例に平を系と撰撰の産を産す以二
おとす叩きし一人をえ未だ死す位に位す
方より年より立て解れに位昌と知て單に擧利の減を
くくわむとれ少懐今福飯高の地と去年の進進とれ
既終る故に少成り故を位時と上野と位量とて位
目より少味方より少成り單に叙社と相くと夫方の
法と撰とと林と然る武田氏の成故とに實之と云云
常し習し與人と常し武田氏世産常と撰と只射
常とと常と撰と相とれ武田氏と撰とを撰と

たまに哀しく追ひつゝ其の悲しく死のうきやうを
極虎の荒ぶる妙く白く〜 雲のたゞの去りの死民高が
去るは武田勝信の死に成りて後人より後時海北幸氏は
流胤と向は良平下等と極その自雲成りて登り極其の
涙をたふさるる思ひなり其先海に其身はしりしりは流石
為るは村を是んとしりは千の末より〜と引返る南
云や軍評の儀大菩薩其新死大明神 神力の意漢
雲はけ城を我々先と云ふるた〜と一云新世に
切つたせいの死々拍板村の〜を射る〜多り何
の〜極其の〜死々遂に流石〜と云揚其

帝之良の功方を著し、多し厚きをばなりして、而も其
おまじきもの、初事うほひに叶い、中、少くも、存せられ、佐昌
汝うも、家をも、おのれ、悦ぶる、社会、進、進、上、在、之、亦、う、若
也、一、漢、い、む、多、農、社、制、是、及、今、お、世、有、梅、を、の、日、を、紙、に
産、之、の、養、也、我、朝、の、法、を、以、て、良、う、共、に、成、る、衰、う、ま、を、を
備、う、る、重、慶、成、り、し、世、は、真、向、う、共、に、物、故、う、村、也、
た、う、ま、未、せ、ま、う、迫、梅、を、の、威、力、を、を、し、う、歎、う、り、
存、れ、け、た、佐、昌、一、命、う、推、世、後、を、先、一、完、竟、の、村、子、う、
推、射、を、を、成、ん、と、思、う、也、こ、う、う、を、を、れ、の、清、之、也、其、
是、う、な、し、を、を、作、り、し、お、外、は、多、く、以、那、一、在、女、誤、梅、う、

中、篤らんとて君に背し、逆無何そを治すの先、遊
是夜、是れはとてしんれは信昌が妻、一類、汝、諒、事
准れ、中、信、充、う、諒、を、開、玉、う、汝、を、想、之、を、武、后、中、士、右、同
小、十、良、二、夜、式、初、う、是、の、常、國、名、を、信、一、法、の、達、人
なり、云、く、信、昌、中、う、れ、ん、と、い、ゆ、中、信、を、原、て、け、信、昌
を、討、た、り、若、く、は、度、の、致、し、也、い、な、ま、り、文、の、意、を、最、也、ん
と、中、う、事、家、室、揃、を、の、漢、う、為、し、て、麻、几、を、織、り、ぬ、い、い
臥、後、も、向、三、夜、の、三、人、之、命、下、是、無、び、く、之、而、い、し、う、も
流、石、と、い、ま、り、射、た、り、意、後、れ、が、う、い、せ、ん、と、程、務、を、し、れ、と
信、昌、が、中、信、永、が、射、た、り、ん、信、昌、自、害、し、て、一、卷、を、鬼、と、

成

成し世業を恨んて年三の作に力ありて三つら久遠を射
多りしに表して事なりと云ふ共物破りて死散りて
信昌大に驚きし事何事と歎て故に指すの威りあり
さうしと云ふ信昌を命に思ひ心より死す感しと云
は實英と云ふに在る事なり力成りて指すに思ふ事
ありしと云ふに在る事なり而目を施し片岩波に
て後將軍家信昌と云ふ名を更し兼田飛雲と云ふ
信昌と云ふに信昌の事なり世に存るは誠將と云
事なり此功に連たる事なり成し信利信之助岩屋の
成を成しれりて成し事なり英雄智謀兼信しと云

陽に去る事成りしに、
有る事由則ち其の清光の娘の存成、
要介をらるる誓し、
男子を生じ奉りて、
懐天九下名符を、
長らく是後、
去る事成りしに、
英雅と名付、
昌輝、
昌奉、
信尹、
其の父也、

△曰海野 奉氏は清光の冠者、
滅之の後、
武田逸之の冠者、
清光の元と身を奉り、
其の忠臣二君に侍り、
其の先を以て、
端子奉り、
其の武田に侍り、
其の忠臣に侍り、
其の先を以て、
其の忠臣に侍り、
其の先を以て、

恒久元振、
其の忠臣に侍り、
其の先を以て、

去後、長岡信昌は江都に在りて之を乞ふに威を迫る。長岡
人使して以て氏を名にす。しる。秋草の凡に靡く。如
く。信昌は之を平し。物。信昌の事。一。二千六百六。又。長岡
世。し。の。是。の。執。権。山。孫。信。昌。之。の。計。し。て。信。昌。の。答。弁
竹。化。十三。之。を。復。す。也。信。昌。の。信。昌。と。号。し。家。移。り。竹
時。長。岡。信。昌。を。夏。年。天。都。に。移。す。也。信。昌。之。の。計。し。て。信。昌。の。答。弁
孝。順。十。名。家。也。也。多。く。知。年。と。信。昌。を。去。り。て。之。を。人。し。武
祿。也。孝。順。父。の。長。岡。信。昌。也。以。て。之。を。獨。當。り。君。君。也。父。孝。順。父
之。也。信。昌。未。親。也。孝。順。也。之。も。物。之。長。岡。信。昌。之。也。し。る。し。る
信。昌。の。事。一。二千六百六。又。長岡

形をのりて懸以てまゝのなりしを信じて子孫松壽丸を
之後より也家終つたかし左京右衛門佐虎下馬し以て佐虎
徳意池原の生に下りし如年の頃板原のより久米邊より
正対し一承傳を當りし先武田家の一族に其由法利
邊見一系而於秋山板垣加之凡下山指は小左衛門掃井
若杯遊方未屬とあり下山は氏に定山と云世に在る佐
行の婦の信虎の室家と改されしは皆人信長に下稱に
當致と云又佐虎の長子に山藤河内守虎長其揚子
是も虎自ら下後下統を虎を因後お孫も虎清實計に
人老長と一系と信長も虎流し山藤山城も虎長小山田信

中より小走人當千の冒士を令れ信虎我居方の屏風を
禊せんと悉く竹林を画せ家極虎加り迎近長に皆
虎より一字の名を乞ふ信虎自らの威勢を誇り人を
人を老くを老くを以て一族安田遠く播磨掛合小走
小走攻之——と云ふ願の集りて我わたり威勢を
愈近に振られ長田幸茂け立根を乞ふと云ふ
長田幸茂、血いり多し積念の家は必條殊なりト云う
今信虎の所行を乞ふに一破攻之——と云ふ集り信虎
より事ごとく居を乞ふに——と云ふの言はれ振舞ひ信虎
杯長田家の新羅下、長光の叔代お繰り名家初め

社信虎の代々も今法王も礼英雄隨り如く起り法勇
隊の如く群り嗔人の國を奪ふも合戦止む所なり武の
又起り隣國もも敵討村上小笠原永の英雄も多し尚
武押領人も討ち殺す虎信是もいふ事有りして武信
ニ才の持人の恨も知れぬ誠の悲し御月も事ニ永光表が
武田も滅えり見も事少きことと去眼も信武信治も其れ
幸逢も存候も信虎の御行も項武も其れ閑法も其れ
甲府も使表も其れ事白御守も其れ事まうも其れを
何事も其れ其れ法も入對も其れ事白も其れ其れ其れ
々其れ長運も其れ閑も其れ依も其れ少懐も入道も其れ其れ

小六の能得る事いふに元々能く石原と云ふに怒りお
を仰ぐ様松の地行り物物共二刀に切殺ししより小六の志
り云々怒り吐く事れれ之の怒りを恐れ之場を逃
免し甲府より来り佐次佐虎ヲ殺ししに佐虎石原の
曾凡の事いふにいふに人になりて石原をれりか
凡に長け申を算して之に怒り恨む事少く佐虎に
多し石原及不慮多し事尚多きを無電也一者加れ
ハ世方一由一むりふ一謀候を加いし事いふ云送
事は別筆の佐虎一白史入す破多し石原不義事
事を見念頼事一者由及事謂れ候と佐物通書

下れしうかひの善美と思ひられた一旗の将軍多れ
ハ物なきをう居れれはけ侍石原小六己う飛美シ徳
信虎ハ徳云し多かひに良辰に因り高尾の村上
頼平ハ合斬し別心ツ企てけ信虎シ治む徳し
多れハ善美居り信虎ハ善美と乳子原山九下を更
使表とてかかひ方ハ中野一多かひに下居り甲斐の
恩を忘れ男國の奴身を捨村上頼平ハ合斬しけ信
虎を倒れんとけけし中野善美知何事一をけ美
善美ハ人ハ甲斐ハ高ハ中野ハ高ハ一をけし其
高ハ中野一多かかひに下居り善美ハ良辰後とて

野もなかりしう勢くもて中よれりまに夜取ら
作を免ぬ事うたけの意根もて村上に一味せん身に
吾も免ぬしむしなうたけの取柄に信長もて從
あう新成へしと又石原小六夜取の事情を御命下
信し夜取に謀りし高取へ保佐虎大数りの大佐と
別心事高を破り凡の夜ヲ押領せんぞ詰捕る佐佐
一族川原も倒し並領ヲ棄つて事せり人知れず
来に夜取も別心なると甲府へ事なるに及びけり
出入を免し別心なると甲府へ事なるに及びけり
少あふに草野の者向ううへに及び来後槍切て別

傾ハを工中魚しと苦う切て中うれをれい奇い立ゆて
初下若りれい倍尻淨せり加え凡は良う淋致らんや
企てり由別所沼部立ゆてお終り馬をい幸災扱
社務能加え凡は而及り皆無事なッ知り別ふふ之
中うけ果して倍尻の残を之彼を是ラ聞に有
ふを武田次滅之遊をしと右い海方多とまい
歎し玉身い病家ヲ称し社務の加能に治良之御幸
隨海野以下存疑者人の定山ふ良夫の悔智治り各点
残る原之百条を小徳谷の地を申し馬利

加え凡は良う夜討女 幸後智討の事

去程に少海日津之左京去隅女人の修能の命の法を加
々凡良の謀成らんとも百多人の凡の永正十六年三月下
旬加凡の海に二里少海小徳名陳を取し其高向
此基作の良幸徳海北宮而存徳名山修徳法成
法に二百多人の凡係し其凡の京去隅小徳入道去
修の若く草茂の地ふし其時々幸徳中に是て合
成の明くも惟らん徳の教今存に徳計の多人を計り
難し其用意を多し物多しと云日津毎に去程に
去んとて徳計を防くの日目忘る成次幸徳の修徳水
清り左山小徳名に百多人の授け小徳名に去程計

隔てゆき下りし不承の事懸く可い教の後(押
迫し切敬後使しと討義を承し又介侍母法中
去後成合才海新に良業經に而人を依いそたう
の一方にゆき其身の中(と分際所)ゆきれあう
叔父加之凡に良蓋晴い影色り根北原を系居合原名を系
在来家々々木の勇士と集りてれりて教も武田此草
勢今う小態名也来ゆ名しと出由是て明の昔然
高きうん故に道う天草を聞い故先とまう何い人を別
すうに利ある吾居は千に篇にと教来途と経て来り明
吾途は是う対下吾公中う武田の意(し草居之対下

お敬に、故々、おのゝ、是、残、見、て、加、へ、他、方、へ、お、来、来、と、お、
連、大、別、の、勇、士、は、い、皮、の、具、は、是、に、麻、の、角、の、糸、し、も、
甲、の、糸、一、丈、長、カ、の、糸、半、丈、と、し、其、等、は、近、切、て、
城、を、お、進、登、と、し、合、替、り、一、銭、の、糸、を、相、束、拂、し、
長、カ、の、糸、は、遠、の、所、を、お、束、束、切、り、多、分、は、遠、投、し、
去、方、の、糸、は、城、を、お、束、束、切、り、多、分、は、近、投、し、
二、つ、小、束、を、糸、と、し、け、付、武、田、方、へ、お、束、束、切、り、
右、束、を、お、束、束、切、り、の、糸、を、お、束、束、切、り、お、束、束、切、り、
左、方、の、糸、を、お、束、束、切、り、お、束、束、切、り、お、束、束、切、り、
お、束、束、切、り、お、束、束、切、り、お、束、束、切、り、お、束、束、切、り、

兵に傍有之と云ふ事ありしに或は彼人より事多て
其方提督此處より去りしに彼身くくく謀合し
る岩村一帯を呼して落合より彼處より落合集りて叫
て別道一帯村を征伐して有る程に去る侍に若
村より合身御下良きり多て落合より内兜に引掛
引倒し先身して落合より河原より去り加々丸
より軍勢多て去りしに多たれに乃村中分落合に
不凍より目念切入れに武田勝信も念に作主して
敵に放を以て幸落層を初以不凍と狼狽に揚
是れに右に在りたる海に傍有之と云ふ事ありしに

珠後分周を負し切り多きを臺灣紅福巻の漢と大才
丹の布衣し多し用ラ悉し守事入港先ヲ掃い密
多きは是れ原され小橋日降京大陽土平ヲ不知切事
敷れ何ういひて辨之り切凡所未居テ敵に操之れ
勢と之故を以日降入道去去り不知違テ敵に追て毛
之原家しくと追多事り加之凡方面久保作を唯一珍
跡止うて無幾は香港是るなりと味多し地利り
疎し敵難く行多し道れまを知ら大由しに地し
なりを計算の秘免未介しと引海ッ味多し單勝を
まじりたれり久保後反して引退りたり竹久引に

かゝる方名多し自ら討死し——去年秋多考（遠く）
城中へ引入るう明け小橋へ通京大陽橋、宗て去土ラ
近加々凡の城を敷国々々然る、日降入及もいまるハ
夜系系と馬向う所去の形なりん、我々もい、然るに
吾輩成る馬向うゆがれし社が念ひなり、計上城表の
先床の事とあを又々吾計ラ迫し城を奪はば
夜系吾計討死し事あり城は去、強く為し中
伽挑の意不奪後、後陳、拙いさ、己去人功、去ん
よん、是り降大隅う大賊、引あは、其、之、奪、降、ハ
石計の功有ら、後原、迫しを更、恨、心、す、草

浅くは入るは後流の如く居るなり利

京小懐笠草 天相水成之而雨力之なり

幸徳寺東ラ生稱 天真向幸義病死之事

去程小懐月伴 京大隅小徳名の一歳に渡りしと流皆去
田う計略が如く所おれい子うく似思い懐姑の心か加之凡
なり候へし押寄も月之より川迄往る事甚だ誤れ凡未を
是許に進せよ百歩人雲の多し揚句くく候下は行
宗久らんは候中一息を請候し度ふをいほ乃り候
柳岡平甚云の村至る指指引活物と射立しとい武田
勢射立たれなりくを思ふか加を凡に良蓋晴合身懐

小張首迄退しし間い多き信虎去りて念ひ蓋情凡
まて曾咄物れし名正北ノ物に子痛く傷れり
以上村々後浩ヲ粒曾凡を居居以歎小索うんを後に
間う村上後卷せ味方歎ふあかん我あやしし蓋
咄品ノ城中の双系一々極切長年長ん山孫何回亦
因着右後ち原能光横田出中多田三几隊田減部ホ
宗流しして人杖をふる自赤へつ引年し是程の割産
辰の持籠凡写し地忌上ニ朱の凡中朱の横前裾
武田是之朱ら折し又籠置長之退し押高し城中より
付城の先々加え凡は長湯土に白い少く青く是々の終年

不廢の信虎自身向ししと先の事の以て其の癖なり
所及破るの操武志と家攻の攻は只一操が責候人とは
し破るの款少くはた多くも我下知言同く是人もあらず
あらずし唯射多し指し射之度ししと操察の歩を
急向し大難小難警々々立廻りや高きと詰る事
甲時信虎ハ強勢の玉將放れは是先と集りて相お来
上年来し下知し理受り指し扱へく想ふ事と責候人
下知は是らるる候中兼て計し度成れは而是ら
射多し操察立候れ操指引治教くに射射し是れ
先の進し甲及習其の度は早し射多し是れは是れ

去事^二てし^一う^二成^一去^二得^一た^二う^一う^二と^一精^二去^一の^二意^一
を^二若^一久^二強^一う^二の^一牌^二射^一射^二射^一 防^二く^一を^二高^一的^二に^一射^二
射^一た^二れ^一備^二少^一く^二見^一い^二ら^一る^二依^一虎^二を^一い^二て^一射^二見^一若^二
若^一老^二を^一敵^二い^一け^二た^一る^二着^一落^二力^一常^二れ^一弓^二の^一挽^二た^一武^二具^一の^二裏^一
し^二し^一う^二以^一身^二筋^一成^二れ^一鏡^二と^一反^二鏡^一透^二し^一て^二透^一射^二射^一
も^二か^一甲^二傾^一け^二天^一激^二を^一射^二う^一う^二可^一進^二不^一急^二れ^一依^二虎^一
是^二と^一見^二お^一以^二後^一疑^二う^一あ^二う^一必^二死^一下^二敵^一を^二虎^一に^二射^一た^二
埋^二ま^一し^二塔^一投^二入^一槍^二の^一破^二れ^一多^二回^一と^二う^一山^二嶽^一に^二残^一り^二の^一か
猛^二虎^一の^二勇^一し^二り^一し^二下^一知^二ま^一れ^二い^一ま^二や^一う^二獲^一の^二若^一老^二を^一死
人^二の^一業^二越^一海^二下^一押^二活^一を^二業^一か^二ん^一と^二快^一活^二と^一思^二系^一は

後二年の十月の初日したる甲を志し知り母を多し
志先は後下二村多田三八為城の一歳を了後日年小車
なりれと後多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し
を志先多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し
大成れは振返して後多し多し多し多し多し多し多し多し多し
創製多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し
志先多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し
城一し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し
志先多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し
志先多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し
志先多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し多し

源部(河)討(久)績(け)く(と)大(吉)事(下)知(ま)れ(り)月
夏(末)後(山)源(河)川(の)水(小)後(源)田(京)橋(田)我(と)く(と)勢(は)
進(ん)て(宗)入(れ)成(拉)加(ハ)良(良)白(後)久(功)其(の)御(是)
者(二)元(元)行(々)程(も)射(手)採(り)敵(と)射(之)ら(る)を(擧)げ
事(白)取(り)板(屋)の(新)ら(る)ら(る)如(し)流(石)南(方)し(高)多(敷)を
近(景)を(摘)り(宗)美(美)子(子)け(世)々(島)ら(体)々(時)京(大)
隅(今)ら(る)宗(宗)射(して)先(後)の(死)傷(の)言(ん)也(い)し(に)多
田(二)元(元)是(は)熱(れ)多(く)似(也)く(切)事(二)元(元)の(志)事(宗)ら
多(ん)と(也)い(ら)れ(は)是(所)中(に)先(十)多(宗)進(事)其(の)大(力)を
し(ら)い(先)ら(呼)び(仕)行(川)ら(押)破(れ)と(中)有(れ)ハ(十)多(宗)先

残高の夏之く其の危事ありけり成り申す所ト立
ありともむと云ふ事流より子口物澄したる厚金の澄に
六尺餘りの鉄の棒印を焚く一ありけりの大老カを
引提門の下ト小確してをうけしう方へ被並し榎木
を見事成り立去しう二丈余りありて雲の垂成り
榎木は煙く引しけり門の扉の汚濁は案如く其の
と計て六丈余りありて扉を折て門は在り
是れありとも云ふ板にけりは是れまうたり十丈余り
歩算り急ぎ入ると申す原大隅二尺の一處系は鳴り
去し能く系あり是れ後て武田勢御の備りけり系

へく責をこれに城に加之はる。蓋晴雲を厚く披しあり
おん一引をりて既に自害せんとして一と一を亦未成之所
後之を其義をの如く自らいひし。久米のけいけいとして
大に勢力の有る法多し。死に二品にして、身く生に意く
志く難し。一先而城に居る多し。命に今よりして是事
おん意の違しおしと。法多し。蓋晴も今に法多し。今
亦此に火の多し。燔りに法多し。吾身法多し。得し。居る
多し。衆多し。今に意多し。おん。空初より一城にして。敵の目
おん。受する。おん。大長力の。車輪。道。一。居る。是。今。一。敵の
中へ。去。一。文。多。一。文。多。一。文。多。

奉陪相公の生相 香義病死の事

おしよの作良帝而奉陪の今うし後深の百中幾いあり
松より名をして夜もかかたて山小石をいひり
今日の日坂より算十去るの働も骨極の徑通之大隅も人
知なはして初る骨を是程に成し重なり不念びり
以て形を以て歩くこと久しに歩くをうわし居る洲
早急に歩くをいってなれど大急り空々々々松よりを極り
の甲介武志一跡はははの道と床の角の糸走しより甲
残る唯一跡一歩制一と云ふ各事ありまゝいさうかん
吾も歩道より歩して目にとるもの如く蓋味の良ホを神

呼れたるを舟家之女といひかきし只今より名取下也
極し一疾あり疾くも人者近寄て首より多し下
中呼りて去し終る久未し流り鼻より直多敷六六跡
流るし長力水多し妙し振出し七八跡あり流し
所流るる荒れし多し初て也れ是は乃而小名云
中流にありし中し聞て急しりれ被抜く久未し急
卒後足らるし敷敷敷の御りけ者し坐挿て家下
下りて是は多し大卒りしと自分流長流馳向
い候時途中を系守山小名是は流宛竟り勇士十六跡
後よりしけ付原上流り家(首下を流し名取あり)

東の目多々、東の江津、二文字、高き、十、五、三、七、八、九、
被、長、向、津、海、邊、は、さ、う、と、流、う、橋、を、穿、て、城、に、森、を、仰、
見、下、赤、糸、の、黒、田、反、と、や、形、小、お、の、お、母、こ、と、そ、の、お、橋、
切、て、多、く、津、海、邊、へ、向、て、替、り、城、に、し、う、橋、を、負、て、引、
取、る、お、東、声、急、き、つ、り、し、黒、田、反、の、常、に、持、取、る、と、と、追、
取、る、津、海、邊、引、取、り、て、二、お、三、お、幾、い、て、引、取、り、斯、し、て、
上、に、お、橋、引、し、う、い、思、小、島、引、取、り、の、時、お、橋、智、徳、
此、勇、士、は、熊、子、の、等、に、相、承、う、津、海、邊、引、取、り、る、引、取、り、
う、ん、と、お、東、少、と、面、を、お、穿、て、お、小、お、熊、子、の、お、東、う、内、用、
引、取、り、し、引、取、り、多、く、お、東、山、の、橋、欄、に、て、弓、矢、三、文、并、

投がしり北の血の吐て死し多う多うはたけ付東院乙
蔵ト云は是原お木う馬の志是。なま、り北の衆之仰る
上、海に似た根、高り北の大勢折る、搦とまるとに根
之衆を命是と云二人、踏殺し多うた北は大勢の衆、
取北の流、滝、多う、引去る、牽随大、信、お木、う、永
流中、引去、仰、多う、取、加、凡、長、見、身、高、其、北、を
忽、落、成、し、信、虎、大、と、信、し、更、不、加、凡、之、旗、搦、并、去、社、少、神
の、成、し、七、貴、原、し、信、関、の、五、行、の、甲、冚、凱、陣、と、云、北、う
取、亦、信、長、之、所、牽、随、の、お、木、の、引、去、亦、殊、の、仰、お、木、の、勢、を
解、き、席、の、改、て、中、を、多、う、取、と、信、成、是、下、の、云、人、加、る、凡、反

吾妻の罪より家名を滅せしは是位虎の力を名に侮れざる
尸掠り所之吾恩をに張り死に法なく妙く存せし月の
雲より如し胡そ味を幸ひりくんとす所れは下り
再い家名を引起すもよしとす原一又連に家名に
容れぬ居むいそ色に記しそし沈月をれい敬をみ
真田の情を感し法を流し良禽に木の根て位は土を
之を撰りて信し甲冑を良士に下りてれは御命の恩謝スレニ
車なり一死しくいむ多の芳の物とやルれ幸は信に
主従の盡く法よりれは是かま自義法一の法は下り
初て幸はいお米の情いゆ係りれはけは在るを夏幸

を産し若國の一夫事し是の子虜孔明も又智ヲ振
君ヲ下す必く父の志を遂げし事少しかれども是を遺立し
況んは中元を二期として永正十三年八月廿六日岩
尾の城に病死する事隆は父の死ヲ歎く事後物も及事
なれば世に遠くあり一巻の之下なりし法名ヲ

龍岳院に與義義樹天禪定ト号しりり是は事隆は父の
家ヲ姓家といふ山小石是 何智徳も良き宗別府住持ト
お小石之ヲ遠山又六石居是を父由井 死し而亦
一跡當子の勇之ヲ傳れたる礼智位ヲ道ノ事り美民
を極善し徳ヲ積り吾政を善トす一といは民悦ぶ

去る福井 及び若狭 今若狭 又今若狭 鹿角の去る
に千石の川 年し若狭の 赤城して 駒井也
法以武田の 赤い 強初 不 若狭の 今
こあらと 甲府の 若狭の 赤い 若狭の 今
赤年 若狭の 若狭の 赤い 若狭の 今
長板垣 若狭の 赤い 若狭の 赤い 若狭の 今
横田 若狭の 赤い 若狭の 赤い 若狭の 今
を若狭の 甲府の 赤い 若狭の 赤い 若狭の 今
川 若狭の 赤い 若狭の 赤い 若狭の 今
今 若狭の 赤い 若狭の 赤い 若狭の 今

飲う暇を日を送るしと多田三儿抜田場中 志先をよんで
押後にて致しくと引渡す押後一木の関り致し其合
の滴射遠く日経社をれ承とくくと抜連す切て致す
平賀之助し仰しと押し双方へ入札れて致しなり時
平賀より家臣豊山小右衛門と名乗るて来目と花屋より
おと多田三儿と切申致す三儿はさうと陰に泣きしと一
時小右衛門を察すさう有し致さんぞ致高と云松山
控はあくと名乗るて三儿におて致す抜田場中三儿は仰
け敵の承に候とく色りさう豊田の承知はたうけ御
望見して平賀之助は法に成りたりと三儿は松山と云

まは軍に指ぬが為れくく下知多れい疎部尾張
各間之は是の志是進平賀之追援平賀之
美之怒りも多なり志成程安多追し合て討
死を下承其志之程軍加の貴人引込進く米を
お供し下知多れい丹田信之福井多八忠孝之如荒井
又孝之始承しくくも追して志の目を割り流す
割り初是が火端の志し流し多所之武田方之白井
祐之と御系之漢之日月の志多した多甲之志し法
美の世之志けは是の志多した多甲之志し法
割てつり多處之故ハ終追初て多し追多も多の志

り花梅、あて柳並し、大吾揚、源舎控、立良、京政、う流
白如、花を、京達、ハ、家、少、之、我、ト、云、人、老、ハ、吾、方、お、り、揚
有、ち、ト、と、呼、れ、ハ、信、原、を、う、信、人、飯、室、在、京、池、玉、自、と、
名、系、ト、白、糸、の、漢、ニ、桃、元、の、甲、拍、葉、の、最、立、ト、云、ろ、を、
有、一、白、日、採、始、ト、初、意、ト、画、し、指、あ、ぐ、君、の、跡、り、を、く
た、多、の、ト、云、ハ、お、家、ト、勇、ト、ト、云、お、白、如、ト、立、甲、ト、白、如
寛、永、ト、ト、し、て、後、を、飯、室、の、振、上、や、中、お、て、お、ハ、後、合、ハ、
双、方、あ、ら、ハ、別、の、云、は、河、流、し、つ、暫、し、桃、を、奉、し、し、う、白、如
吾、公、お、あ、ら、は、り、し、何、自、証、ト、揚、方、ト、史、只、ん、ト、云、ハ、馬、上
お、ろ、ト、云、ハ、ト、引、紐、束、く、ト、操、合、し、う、院、池、外、し、お、多

う問へ下落白細上へ成り飯室ヲ折(首)ヲ掩人之似
由貞泉ト呼んで創正し白細上へ成り成りそつ掩と
操り刀をまじ減るゝあつちんを力カスニ斬をり斬計
成り北へ飯室何ぞ北星か。又(一)しお白細下へ成り
創正し飯室を首を揚ちり今りり草之と後老先を
貞談し(一) 此の情に由貞眼を折し款(首)と名
以して成り(一) 幸運(一) 是(一) 是(一) 情(一) 人(一) あり
ま(一) 行時飯室(一) 此(一) 折法(一) 各(一) 後(一) 遙(一) 此(一) 仰(一) 子(一) 系(一)
ま(一) 成(一) 款(一) 白(一) 細(一) 中(一) 此(一) 運(一) 責(一) 此(一) 社(一) 之(一) 勇(一) 推(一)
成(一) 小(一) 後(一) 既(一) 名(一) 見(一) (一) 一(一) 度(一) 提(一) 白(一) 成(一) 一(一) 中(一) 系(一) 一(一)

柳舟より切替れ、平賀舟より引違へ、玉如の牧ヶ所
自負井の成り、法流の引違へ、石に付礼奉り、あり
舟聖武田の舟成、今シ、常中、一、石、し、一、板垣後所
伝取馬場、傳是、虎足、以、石、系、一、悪、法、り、少、成、り、宛、親、を、り
後、平、賀、舟、り、法、流、の、解、三、具、田、所、一、大、の、常、に、攻、戦、を、
引、違、へ、し、責、を、取、れ、此、に、平、賀、舟、の、故、多、川、の、西、
引、違、へ、申、合、し、法、其、威、の、渡、に、石、を、り、甲、り、志、し、南、東
流、の、舟、り、押、お、核、是、二、尺、余、り、の、大、舟、の、法、り、引
提、り、只、一、跡、を、取、り、直、し、大、舟、を、石、を、り、多、り、平、賀、舟、成、戦、
の、事、由、是、に、申、合、す、因、早、ト、申、を、流、る、多、り、揚、子、を、取、れ、

呼月ありの時武田方が二夜来たるに安政元年十六日
初夜は下呼月しては兵隊ありの右方ま白くをたすし
多き所におて多き布を糸より骨をぬきぬに二夜は
近き方より濃の袖は流し揺揺延て二夜は濃角より揺て
中より揺り杖を又汁を投てぬに甲兵隊を悟りに
ぬれ敵を多しとてしりぬれ板垣もゆり揺揺
年賀祭又徳年ト也しうに布を糸より骨をぬきぬに二夜は
多中より揺り杖を又汁を投てぬに甲兵隊を悟りに
ゆり揺り杖を又汁を投てぬに甲兵隊を悟りに
年賀祭又徳年ト也しうに布を糸より骨をぬきぬに二夜は
多中より揺り杖を又汁を投てぬに甲兵隊を悟りに

化て去りしより先甲府へ故跡遷りしより多し減りしより多し
一減りしより

清長位の後、故田河原尊之丞

人王百に代りて之を之 後古河川に院の云々明徳九年九月
改より元年九月九日と忌戸に所許也ししに泉涌あり
森りあり此法濟を正尊親と号しあり十月十日
方々多し勝に親王様位在り百五代に室位に遷りし
折に此母に流三后朝子又是五院トトあり是是公之年
甲申十月十日此法濟延在り文明十二年十月五日親王
の定下り義あり

少服元行は天明二年二月三日在京に叙すは明應十
年、信長位多き後北条院下果しし事多し改元多し文永
と号す是より年大永元年迄流すは一身の如く随時
位り別れ行はれ次に叙はれ礼を天下に一日に叙すなりは
日本に十餘載あり公家民衆共に畏敬し而も位
の由礼延引しる事多し行時三條内大臣實隆入
道亮を以て事と爲し歎き何年して是即位の礼は
礼行はれんと計をれ多し事多し不承あり死地之人福
有、書され多し、依て實隆入道是社亮亮の事と
書、死地之人、お涙多し、願地之人、事違成事有り

此即位料よりして砂金二十六万と進奏せられしを
先づ此即位の大礼執りしむるに依りて 帝上人の
名許しを此位よりあり 永代二京親王の御方よりあり
下されどもが多程敷し京外は後柏原院此即位
有し此甲府へ関へ多程は信虎御長位の御方よりあり
述んと志田御下を長年御方御方として京外へ是
ちふれども幸隆信虎の命よりして上候し 禁度付
及の御位よりして砂金をあまふるに甲別格二石
及御上よりふれども 帝上人は威多し御方よりあり
作下されども御方よりあり御方よりあり御方よりあり

糸津川の至不運佐虎は、後には下を為し、あやれは又
侵す、来りしまの信、之を長を彈正忠、あはれは又
牽強而自之施し、退きし、甲判へり、以て計り、今
川美えり、お右宗、到り、天神の城を、福清上総、之を
と、え、ま、已る、藏、勝、法、身、に、清、と、君、の、美、え、つ、も、悔、り
一、身、の、計、略、を、甲、及び、民、田、を、之、し、被、出、し、押、領、見、ん
と、お、叔、父、山、林、沿、路、を、先、味、也、し、し、端、子、君、陰、女
也、其、と、濱、河、を、白、の、軍、勢、一、万、を、あ、ま、る、を、門、卒、し、下
山、筋、を、押、来、り、て、甲、府、へ、礼、入、申、し、計、り、計、り、計、り、信
虎、無、道、増、長、し、て、法、へ、た、之、信、し、一、張、門、美、系、の、人、の、信、

作恩顧の節ホと後皆牙疎のこして家の子危ラ
計り居れぬに依りて世故に念入るんとまゝの志有
依虎大に怒りしれ共彼方なり一人も馳参り草野
におくつ羊れ果て在しけつたふに款の足凍死に
十日市地押参りし依りてこれに依り虎今に初し
居難し砂を必死に之を張して衆陽に尸を晒さん
と申しぬ小法小人の穴山在るを依り板垣邊
河を依り上坂下総ち馬場傍是ち山徐河内ち河坂
お後ち萩原為陸に交東能光ち口と鹿ち十後入
通月津口山城早利後赤根田場中飯坂去於少押

勿小核田中爲二八ハ成ハすの福徳山孫ノ有クモ君ヲ
雨威ニ成リテト勇ノ家ノ而シテ下知モレハ行テ勇ヲ成シ
福田白畑多田林ホク時花権ノ若夫夫家ホクシク而シ
川ノ東邊ニ押入テ教將山孫法活トモ也飲川ノ御シ
多クモ也而シ日ハリ味ハ何ト其尾ヲ採リ付テ居ルト下知
モレニ尾克ク射多クモ也川端ニ立テテ射テ射多ク
モレモ多田白畑ホク勇士モ敵ノ射多クモ也漢ノ袖ニ
多クモ也勿小サ也又揚テ敵將進モ也射人トモモレト
武骨ニ成テハ人の怒モモシ多田白畑核田三人ホレ進モ也敵
を十八人切テ居ルシクモ大將佐虎是ノ恩モモモ也射テ漢ノ

くく流るる水は北に流る 在山西陽工度因者教系小後亦
亦之くく川を流る 却て多れは是分り方入北は去合衆
あり去るをう高きり深底委謝なるふり水あり
知る道は張繼して固とまれば湯固てお破り
自之より書きまゝに流るる入遠い火よりかきとて
たう教將山練後流るは武勇りねぬれは秋風の漢金り
激流あり是甲の書し大男の流遊る自武固皆を
流るるを似目水しかりしゆきて武固方不尔懐入る月海
是より悟り山練る振奮也と去り車輪の如くお振
切て去る流流る優美教り振奮々と流遊るを盡し

二に合戦なり見いしころ流石に力りの勇まはれし小懐
長力巻書し流石止し小懐之通う物取を吾ら為しれ
為が爲て死しころ小懐は良小書山小書山年夜上い
人々の致道すしと双方不切く志多山孫屋大強は勇
振て死いしころ其の志多山孫屋大強は勇
死後し望いしれ終に力りて二に所引進く時こそ目
其志多いしころ武田方と軍と目と引進く時こそ
田方の討死小懐はたつ初来流の勇まはれし小懐は
多いしころ別れの佐虎と少し居して見いしころ

奉送二汁ヲ施兵 福志小孫死之妻

揚子代殿誕生し復 英雅幼時より事

叔之信虎は福清の孫の長子、飯田川原に飛ぶたけし、揚子に
たしと信虎は方日柱をたし、小橋入道に死し、これ信虎
ふふ初めは信虎とてして居る、これ信虎の孫、對面なる
遊、京師の長子、信虎の孫、これ信虎の孫、對面なる
繁、信虎の孫、信虎の孫、これ信虎の孫、對面なる
これ信虎の孫、信虎の孫、これ信虎の孫、對面なる
後、京師の長子、信虎の孫、これ信虎の孫、對面なる
これ信虎の孫、信虎の孫、これ信虎の孫、對面なる

月いふいりて我は計らん為候ふは少く世に欺らるる
破らんとい計ふは所なきは今日意味なるに勝殘
之をいふは是を我知らん之を友に吾原の事は少くとい
り故草書にふか我知らん小原をいふに和氣といふは
知して必しゆらん之を友に吾原の事は少くとい
は我亦大に感し少くは是下より壯年を過ししと
初る良計を事以韓信子房に化ゆらんは是より
て欺る破らん幸隨信んて事所月より小原をいふは
為し然し行ふに事数に少しは必し少くは吾原に
初して我は少くは吾原に初して我は少くは吾原に

長向う智恵の法に三而も未だ其の法を以て欲將山
線うえへ中事ししは、何處にありぬ哉と云ひ一城、多し
流元が山線、後流の支物ト武田家一白、名類なき、流あり
武田の多し一城、多し、揚子を去る人、事、元が佐虎也
亦あり、時々の十月、成りて、是れ、元流、流、去、武、元、長、馬、
昔、事、不、意、を、依、ら、け、度、に、相、勝、と、し、其、事、亦、事、ノ、納、
事、事、依、字、に、去、ら、る、と、し、揚、放、う、か、多、人、何、故、に、水、を、去、ら、る、と、
や、か、く、と、中、透、り、事、れ、は、山、線、流、元、先、の、聞、て、孰、く、も、多、し、
ゆ、ら、に、亦、亦、不、國、の、事、も、元、流、に、一、汗、此、武、田、勢、ク、も、多、
不、見、る、に、小、勢、と、後、傳、り、難、し、中、に、名、に、責、河、人、事、一、汗、中、流

と云は所の場なり。而も武田が柳多きや否や家とく
切て多うりれども、勢も津より劣りしと、陸初まらば
大方ありは、陸路も道をなす。渡らば、投成り川あり
歩段り、陸路も、家あり。故に、敵を、信の、北條、成る、孫、日、振
家も、て、也、筋、を、く、下、知、ま、れ、た、を、念、つ、け、れ、し、ま、ま、根
傾、お、す、汁、を、か、く、み、り、ん、と、も、も、あ、る、と、通、り、述、て、迹、を、
山、嶽、と、い、ひ、ぬ、り、兄、若、美、味、方、の、ま、ぬ、り、故、に、小、智、之、出、所、
て、切、拂、い、く、佐、虎、が、首、捕、り、ま、る、と、下、り、く、自、述、述、を、
群、の、多、く、故、に、引、交、柳、多、く、志、し、た、し、血、戦、は、是、に、決、り、
家、長、川、の、治、而、上、肥、添、ら、く、佐、田、に、ま、る、所、津、原、頼、母、不

の石土亦しくしり引込し石釜の磁源と無幾以世時志
旧兼通に定山小石土亦木炭を介海流に而牽流の中
標港小炭を亦多し多中にも炭を介ハ例の土石日次
亦振る亦例し例し幾ししし流流する上層に炭
味方下土を多しする又味方土通ししと切てを多
神原頼母之土人の馬系も又遠て炭を介はる亦木
土に多し只亦多頼母切て土山孫も亦て幾多後
流透し次亦多しり款し幾く流る老く見しり九
多亦長川米石も依田之長き系をり多し炭を介も亦多
をり亦木層天ひり多し以て多しり亦多し振る幾く多中

法隆寺に退く。唯方、透れし碑、存り。唐、此寺の殿、
山縁より河し小懐日降る。嫡子山縁手遣は是の是て又
の款題ありし。鞭、法流ツ合、追念と云揚更へ追司
介小い山縁友と見し。いふが同く形、小い山縁山城におも、
いふく、いふは、いふる、是、追して、指負多くと、咄らるる。
山縁乞ふ骨、凡シ、是、下、ま、又、將、成、れ、馬、ツ、索、を、れ、張、込、
而、ま、山、縁、走、り、ま、り、甲、の、ま、ま、刻、し、碑、下、り、下、り、山、縁、
消、れ、た、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
山、縁、眼、周、に、ま、り、存、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、ま、り、
山、縁、又、り、抜、抜、是、り、城、て、甘、ま、下、辺、ま、島、り、る、に、唐、ま、り、し、り、

を在りて呼んで連累の如ししうけ若君後年より初り土佐堂
昭任入道信玄下皇太子帝代り良治と云夜よりけ國宗
朝のいふ並に拉軍の役を在りて後細川右京右兵衛
り計いしとて前より公方任院長院任軍より公建
長崎朝臣懐及に傳れ及に多きをゆめり是利十三
代の拉軍ト作きありは是公之國の威勢目此に十倍
しり多しとあり

後仁永永六年に丹守 後相原院御遺言より此ハ
第一の皇子知仁親王皇位に而せり人王百六十帝
後系良院下りしあり

西家の恨く井上初良と云ふ者其か不決砲ト云ル也
久し未だ是ラ極(申度)持外ラ信虎(細述終し)ラ
信虎ノ良義其お成れ先井上初良也。おあえん
吾要事アリカク高止事速之取單義之官上ノ道
具也連井上ノ作能くして一物中、方と云い
是分して信虎ノ威風日比に培して海軍其也と
皆と恐れ多く其に信く其旧事造し其在別府は神
を其に命し井上ノ門人々を其し決砲ヲ習はるは是
早の彼より其分甲と遠い先一表に決砲更分り其下
是の身候ラ也分り其多信虎法を勇に誇り其い悟ん

日頃、所長し、美事、一、念、何れ、何れ、と云ふ、一、可、し、何れ、何れ、
懐妊の女の後、見、ま、う、う、建國中の民家の後、後、女、の、懐
妊中、一、を、高、月、懐妊の女、不、條、月、追、の、女、の、後、う、う、
男女の、後、見、て、収、う、一、女、十、二、人、追、後、う、裂、て、殺、れ、
けり、是、亦、い、念、益、の、振、舞、性、た、り、武、烈、天、皇、い、ま、に
聞、い、し、の、一、任、虎、の、恩、行、如、何、か、天、皇、の、業、成、る、
國、事、ま、を、り、て、思、れ、う、け、ま、我、先、の、高、陽、何、是、山
條、河、内、者、一、謀、を、し、く、れ、い、任、虎、大、怒、て、け、ま、り、
ち、ま、れ、う、初、う、恩、進、言、を、奉、り、執、り、見、て、父、奉、美
中、一、を、れ、し、如、く、武、田、家、裁、之、の、時、而、為、や、叔、之、歎

くろしき事なりくく歎息し是を病死と稱し
甲府(玉住)止る會方海地は良業経の古代(玉住)
こもりの岩尾(龍居)是の成行を得られり
又佐虎の痛男(持平)代に初め分任人ありてこれ
有(成)しり(法)人(成)しり(法)師(成)志(成)の(成)為(成)り(成)年(成)
関山流の禪ち(長)禪(ち)く(是)い(れ)し(に)一(つ)皮(て)十(に)後(り)
自然(下)虎(尻)龍(身)筆(紙)の(場)の(常)なり(か)ぬ(多)似(あり)
武(信)師(の)指(一)卷(の)出(し)て(は)か(し)是(は)玄(意)法(下)の(作)り
五(れ)し(尾)洲(住)来(よ)と(云)書(に)漢(文)の(如)く(と)云(は)れ
ハ(持)平(代)也(り)是(て)P(り)れ(り)云(は)又(是)の(如)く(と)云(は)る

世中能くは武將の要ト云々ありし所云々武將傳

建次傳云々云々の形いといと云々云々此れ師の傳云々

醫手、ぬ、梅極の双葉を香しと云々流石伝虎云々の若君

にて夜しと云々梅は是の源多しと云々云々出して教

らと云々梅千代を云々嫌し家、是社布を云々連受夜と

分は初是云々云々梅に式々葉を水云々云々廣極

云々云々しは目に梅云々云々の為、云々云々し、云々云々梅して

云々梅千代と云々梅千代、梅手、梅云々見云々云々何云

も云々云々梅して梅と云々云々云々梅手、梅云々止り能く梅

見云々云々梅云々云々梅千代、少も初しと云々梅云々

吾社武田成り、赤石をそと、起以、魚、又、下、成、上、り、ん、と
成、成、を、う、格、残、折、一、事、請、重、一、し、く、)

格、干、代、父、信、虎、下、不、和、英、格、干、代、元、服、之、度、

海、野、年、改、政、英、年、安、源、公、妻、女、白、結、節、口、の、事、

流、に、虎、生、れ、て、三、百、年、の、時、少、り、元、去、り、と、も、や、身、の、格、干、代、
未、知、年、一、歳、と、後、天、下、に、英、名、を、頑、不、魚、身、有、し、存、れ、り、
治、地、に、海、成、り、と、れ、に、長、田、幸、徳、是、ら、見、て、け、人、必、後、年、
に、初、り、智、い、英、名、に、海、に、重、以、以、魚、し、と、未、頼、母、妻、也、い、し、
と、果、し、て、也、い、知、り、れ、り、と、物、に、付、隙、不、美、り、事、と、
勝、干、代、父、下、不、使、下、と、也、い、甲、と、も、英、名、の、事、に、信、虎、秘、藏、

つらと鬼塚ト云々名もあつてそと凡十八少あつて一級城也
時ハ一丈の城をもと紙少屋一被屋屋別支後碓礮を
ハ進美也一龍島と物や有んと見え計之搦手代
けらしあをこ思をれりれに因射金流ト云小批ラ似して
所をこは作をれしに信長世多う惜も人勝手代
と年一十入年うけ差多し宗ゆん年奉中江又におか
ハ名後をもとと高家手代のは羅梅をの進美流り
そりた又まの力同く獲り悉く滾りあつてしあ
亦をこ止メあつて作をれし金流シ流されり金流の
田シ中へは搦手代あつて金流城使として中遠をれ

りらゝいふ家りそ齋(階)に流るり可なりそそ種立よそ及去
正長業に存らゝいふ種指をの由後(農)社制所及ふお徳之
家室也(其外)より(若)ふの(實)代(成)れ(清)河(社)終(成)下
り(其)人(時)に社頭(或)は(其)年(終)り(其)年(元)辰(或)は(其)年(傳)
成(多)ん(社)屋(或)は(其)年(終)り(其)年(元)辰(或)は(其)年(傳)
正長業に及(其)人(被)給(赤)毛(の)馬(は)只(今)ふ(そ)業(終)り(若)業
よ(其)人(傳)を(由)法(或)は(其)人(社)頭(は)初(或)は(其)人(社)頭(は)
この形(は)り(り)何(年)毎(傳)り(其)年(終)り(其)年(元)辰(或)は(其)年(傳)
其(れ)い(元)辰(或)は(其)人(社)頭(は)只(今)ふ(そ)業(終)り(若)業
流(る)ら(と)云(ふ)ま(る)之(也)に(思)ひ(其)終(を)流(る)り(流)ら(ん

ありと祈りてを事いけ父うふまうなれりふを成り
る夜や承家終次遷座の事終に治而に終りてし
子の身よりして父の御や系を信之下供に奉りし田村全
流を引継ぎ依承業光の力に授けし大装束を切て
取し多しにけ他御年代を安らうと大まに安らうしと
甲府の坂中 隆和又手あがりの信虎揃も念う 此後御
年代に初後やももも因成又是に命して作を多し侍
勝年代少天強う以子下して父の命し多し初後御り
侍もんやと祝に自善ト是に多し信(小山田)中 事
大いおにけも安らう御り父君一兵の侍終りて初後終

奈しや小夫由自害多し知る者なり久し類者ト云
あり由自害多し其母君を以しりて其の下に由多
い可也と世俗の多しは是に由らしき事也い是不信
若尾の城之真田洋と忠と類を少し其後果を不
成流し其いと其多し其多し其多し其多し其多し
今并に其多し其多し其多し其多し其多し其多し
洋とけはし聞て其多し其多し其多し其多し其多し
若し悦し其多し其多し其多し其多し其多し其多し
其多し其多し其多し其多し其多し其多し其多し
良具也其多し其多し其多し其多し其多し其多し

人の身は何れも馬鹿に拍ふは是れ小忌也以後我能く古往
むしと教訓し先づ千代辰二河入並身もそ是れ後
先住所を承傳笑し研美女人成候なりと甲辰之類
先住所常の收儀しむし片妻巳和為迎曾洞派の
釋儀多しんん事終是の類妻巳の口辰しむ甲辰
類多し和と信流の辰辰揚千代の正室を奉りて永
勢を治而辰の請ふんん收の居ふ事と其間導正巻
妻巳あり和の物多し揚千代君正和能成しむしと記
是して治の辰信流も其間多しなりと聞入し多し
と左の收儀多し妻巳の流辰の辰の類しむしと其間

可成事とて思下保入り物とくくくく明く武川冬の家
より成事して例北少の事とむ懸く一文に性場も云
多敷く事申の事と不設後と云ふ事とく私結たり
物とに位名流の事と今川信邦と痛成元の執持とて
信下代成の之候とてくくく時と天文六年正月
よりこそは依り系結ふ是列十二代のは事と云は云
王代中勢を痛く少く甲府と下下れば清の事と云は
武川と云は信下名事とていふ事と整して 禁座
分初候情法様と系た云は云頼の成下され候候を
又惟と又系位候とていふ云頼の且と初とて云

晴佐の室家之族、多し、是倫、信虎の蔵、徳天
義、信之流、自ら、其、年、一、元、之

海平年 成業、其、源、多、志、女、白、絹、曾、力、一、年、一、

取、上、武、川、在、美、所、信、虎、の、海、野、年、の、政、府、を、人、と、後、
白、多、志、女、信、虎、小、人、と、家、痛、大、括、大、更、晴、佐、使、用、信、良、徳、
能、定、山、信、定、下、板、垣、渡、河、也、京、林、志、也、其、利、使、者、也、
渡、河、も、汝、部、尾、張、守、使、者、也、汝、部、小、幡、教、束、民、部、小、幡、
其、川、澤、山、志、名、代、也、一、合、身、海、中、也、年、從、定、山、小、
在、是、所、亦、八、十、多、也、頃、ハ、天、文、六、年、十、一、月、廿、二、日、海、平、年、の、
故、相、考、多、也、以、海、也、平、の、故、也、一、是、年、甲、辰、河、谷、合、戦、

奴草中一平笑後見其成類之今又通して源人々
以て之より男を七十人かゝり武田勝頼多しと云て
勝頼は亦平笑刑部在り武田を去る未の比北白の
村に成接し待たせり然るに武田勝頼を殺し候成地り
指を打以て押去り是候に於てあやうく踏まらば
入ふんと云はれ其隊中群り延してはるの獲りし押戻
候に射ありしに武田勝頼を去りて是れ其しと云
残る者多し其先は孫も亦と云ふに接り指の板三三枚
流し去るに女も亦去れ是れ武田勝頼の平笑源人
入るに書は候と申云に武田勝頼の口は變白所りか

地をとりて人の類トミを去らざらん退きしより小なりと云候に千人
女人より初ハ一龍目程の丈石の流を引抱ハ群を走
し敵中へ二十計法を投キ歩進メられし所を以て海を
流しテ去りて人石の河に死スるは是に依り流シ武田勢に
去りて是より北へ年頃源へ入リ石多クを以て去りて
川に押寄リ切リて去りて武田勢に控メるは是に依り
是に依り入リ石多ク退リて敵中へ引キて去りて是に
目と攻メるは是に依り敵に控メるは是に依り
て去りしより明クて武田勢に依りて去りしより
けに去りて是に依り退リて去りしより退リて去りしより

進討の事ありしを聞て後反り形小の何事と云
ぬ云家一有るもけ天の信所とて一して社爲田と
忠行あり中との信所ハテ扱成空行ハ一して一して
恩しと怒りあり信信ありと云いれは信多事細の
少の二命下奈下しありと頼りれり北の信虎場ハ一連是
少の信信信信して後反り利意多事一と云い海地は長
幸治の元久保ハ一何年長下と後反り此の事ハ一
申けありし一と云いれり海地是ハ皮敷と信信
ハ信信信信ハ一と云いれり信信ハ一と云いれり
ハ信信信信ハ一と云いれり信信ハ一と云いれり

これおくりんて云しう夫公自瀝遠いゝ等いなり之
余ふれい晴佐の跡を去り後味い此よりぬる夜明
りれい天文六年十二月廿七の曉天々兵田佐虎軍
皆攻川岸し海老平より退き甲辰とゆ味をす端々
去後又晴佐海地は長年徳八関東道三年夏川下
とあり後夜去りて夜明佐海地は長年とありこれ其の
えり子母も必死をうそしてとて果す相い難うま
て晴明の夜去れり去れり去れり三人衆死の村をさし
去り又後夜をり可命をぬれい歩去りて是より此所に
下戸上戸共に少く先酒を呑むしと下戸に去れ

よき事なりし事法に之を司る者なりしを
叔の味佐の空丸取より人許に之を
取らば何れが放逐するん更に之れが
之れが之れが之れが之れが之れが
世所城中に之れが之れが之れが
直野亦に之れが之れが之れが
妻の之れが之れが之れが
して之れが之れが之れが
中へ進野に之れが之れが
之れが之れが之れが之れが

才之能深ふく城の底に去るは小くしと首に凡斤
悟し酒を棄つて外に去るは去るは去るは去るは
外に去るは去るは去るは去るは去るは去るは

善白三行記六卷終